

第4期大和市多文化共生会議 第6回会議録(要約)

日時: 2016年9月10日(土)14:00~16:10

場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

出席: 委員(石間フロルデリス、猪野美里、白鳥節郎、東海林まりえ、田野井咲奈、ハゲイ パトリシア、府川貴恒) / 大和市国際・男女共同参画課(篠崎) / 公益財団法人大和市国際化協会(酒井、田中、小西、石川) 以上12名

欠席: 委員(伊藤素美、ウプレティ マトリカ、楠瑠美子、瀬谷麻里)(敬称略)

1 第1期提言に関する取り組みの現状について

配布資料にそって、第1期提言に関する大和市、国際化協会の取り組みを報告したあと、質疑応答の時間をもった。

○社会生活部会テーマ

1 外国人市民への情報提供システムの確立

2 外国人市民のための相談窓口の充実

3 外国人市民が地域住民とコミュニケーションを図ることのできる環境整備

○委員: 大和市役所ホームページの自動翻訳について、翻訳が間違っているなどの問い合わせはあるか?

○大和市: 今のところ翻訳がおかしいのではないかと、といった問い合わせはない。

○委員: わたしも大和市多言語市民サポーターに登録しているが、何をやったらいいのかわからない。

○大和市: これから具体的な活動をすすめられるように整備していきたい。

○委員: 広報に関する取り決めはないようだが、これからつくる予定はあるか。

○大和市: これからもつからないということはなく、柔軟性をもっている所以对応できるようにしていきたい。

○委員: 外国人登録窓口はなくなったようだが、「専門相談員を設置してほしい」との提言に対して通訳員を配置しているなど、大和市はいろいろやってくれていることもある。

しかし、それを知らない人(外国人)が多いのではないかと。例えば、専門窓口があってもそこが何をしてくれるのかわからない、といったケースもあるのではないかと。市民課の外国人登録担当と(2階にある)国際・男女共同参画課にいる通訳員は何か共通性があるのか。それとも別々なのか。

○大和市: 市役所の業務は各部門によって役割が異なる。市民課の担当は、あくまで市民課の業務のための担当者であり、2階の国際・男女共同参画課にいる(国際化

協会のスペイン語)通訳員はもっと幅広い外国人からの相談に応じている。

- 委員：市民課以外の相談などもあるはずで、そうした場合はどうするか。
- 大和市：外国人のための専門相談員は各課に配置されていないが、マニュアルを作成するなどして各窓口で対応できるようにしている。例えば、外国人が国民健康保険の窓口に入らしたときに対応できるように保険年金課で対処している。
- 委員：大和市が何もしてくれていない、と言いたいわけではない。日本人が聞いていてもわかりにくいところがあって、外国人はいろいろな用事で市役所にやってくると思うが、どこに行けばいいか、わからないのではないだろうか。入口のところは整備されていないので次のステップに進みにくい気がする。国際化協会の通訳員に聞けば、対応してくれるということなのだろうか。
- 大和市：市役所の中で連携をとって対応する。市役所の窓口業務以外のことでの問合せなどは、国際化協会を紹介している。
- 委員：市役所に来た人が感じた満足度などを記入するアンケートは行っているか。外国人の声を聞く意味もあると思う。
- 大和市：行っていない。
- 委員：通訳窓口ではどんな相談をされているのか。通訳件数などは公開されているのか。
- 事務局：国際化協会の事業報告書で公開している。市役所に来た外国人すべてではなく、通訳窓口を利用した方の件数をまとめている。2015年度は2,471件。相談内容が一番多いのは「市立病院の診察」(特にベトナム語に多い)。次に多いのは「その他」で、これは市役所業務に関わりのない相談のこと。その次は「税金」関係。「国民健康保険」、「届出手続き」、と続く。
- 委員：大和市の登録外国人は約6,000人で、年間2,471件の通訳相談があるようだが、市内の外国人が相談にくると考えてよいのか？
- 事務局：市内に限らず、横浜など市外に住む近隣の外国人も利用している。

○教育文化部会テーマ

- 1 外国籍児童生徒への指導等の充実
- 2 外国人の日本語学習を図るための環境整備

- 委員：大和市(教育委員会)には教育相談員を置いている。しかし、教育相談員は外国語を話すことはできても、学校現場のことをよく知っている人ばかりではないようだ。うまく通訳できているわけではない。また、いろいろな国、言語の子どもがいるので、すべての(外国につながる)児童生徒に対応できているわけではないと思う。

- 大和市：学校現場に聞いてみないと分からないところだが、何とかできるように対応しているところだと思う。子どもがわかっているかどうか、(わからないけれども)わかっているふりをしている場合などもあり、担任などには分かりにくいケースもあるようだ。
- 委員：生活指導の担当教員は外国語ができる人が配置されているのか。子どもの内面的問題などは教育相談員や通訳ボランティアの方でも通じないときもある。
- 大和市：多言語の対応については、なかなかむずかしいので現場で対応に努めているところ。学校それぞれに裁量があるので、各学校で努力している状況がある。
- 委員：国際化協会の日本語・学習支援ボランティアとして日本語指導を行っているが、(外国につながる子どもに対する)体系的な教育システムが良くわからないところがある。ボランティアをしていると、学校から日本語以外の部分でいろいろなものを依頼されることもある。
- 委員：今は学校現場の話がされているが、例えば、病院など医療の場面では学校現場と似たような問題があるのだろうと思う。そうした仕組みの問題なのではないだろうか。通訳者や翻訳者はあくまで言葉を伝えるだけで、その分野の専門知識があるわけではない。答えにはなっていないが、そうした部分はいくら行政と言っても無理なところがあって、そのようなグレーな部分をどうしていくかだと思う。とはいえ、現場の意見はすごく貴重で勉強になる。
- 委員：(行政でも)手の届かないグレーな部分に対して、どのようにシステムを作って支援していくかが大切だと思う。
- 委員：大和市多言語市民サポーターと日本語・学習支援ボランティアは違うものなのか。
- 大和市：違う制度。重複して登録されている方がいるかもしれない。
- 委員：日本語・学習支援ボランティアは何名の登録があり、その数は十分なのか。
- 事務局：日本語・学習支援ボランティアは 67名。その他に通訳・翻訳ボランティアが 119名、事業ボランティアが 9名、クロスカルチャーセミナーボランティアが 6名、あわせて 201名の登録がある。日本語・学習支援ボランティアは、小中学校からの依頼に応じて派遣しているものだが、あと2～3割は必要だと感じている。

2 第2期提言について

第2期は大和市から「健康」と「防災」のテーマの提示があり、これに関する意見を報告するようにと求められて始まった。「健康」では、聞き取り調査を8回行った。「防災」では、市の防災訓練に参加したり、国際交流フェスティバルで「防災」をテーマにした展示パネル等でPRを行った。

- 外国人市民の健康
- 1 外国人市民が受診しやすい医療機関づくりを進める。
 - 2 外国語で受診できる医療機関の情報を収集し公開する。
 - 3 行政情報を多言語で配布する。
 - 4 外国人市民に国民健康保険制度を周知する。
 - 5 外国人市民にも受けやすい特定健診や特定保健指導、集団検診、個別検診を行う。
 - 6 外国人市民自らが健康増進に取り組める環境を整える。
 - 7 高齢化する外国人市民に対する取り組みを検討する。

- 委員：外国人の高齢者で日本語もできず、怖くて外に出られなくて家にばかりいる人たちを知っている。そうした人の子ども世代は働き盛りで家に帰ってくる時間も遅い。そういう高齢の外国人が集まれる場があるといい。母国のフィリピンやペルーで職業訓練の仕事をしていたので、自分たちの文化、料理など何かを子どもたちや若い人達に教えることができるかもしれない。社会貢献活動につながっている。
- 委員：外に出ることのできない外国人に何か活躍の場所を提供するということが？
- 委員：一つのアイデアだが、そうしたことができるかもしれないと思っている。
- 委員：大和市の生活ガイドは4言語あると思うが、増やす予定は？
- 大和市：今のところはない。
- 委員：必要なのはタイ語だったが、タイ語の生活ガイドはないとのことだった。
- 大和市：課題として受け止めたい。国際化協会にはタイ語のボランティアが登録している。

- 防災
- 1 外国人市民に必要な防災推進体制を早急に整備する。
 - 2 「災害時多言語支援センター」の設置について地域防災計画に明記し、準備や運営に取り組む。
 - 3 多文化共生を進める団体と災害発生時の支援協定を結ぶ。
 - 4 災害発生時に相互支援することのできる広域の連携を作る。
 - 5 災害時外国人支援ボランティアの育成とボランティアの登録制度を創設する。
 - 6 外国人市民も参加しやすい総合防災訓練を開催する。
 - 7 外国人市民のための地域防災訓練を開催する。
 - 8 多言語防災ハンドブックを作成する。
 - 9 外国人も安心して避難できる一時避難場所づくりを進める。

- 委員：地域に入るといえるのは、自治会に入るといえることか。
- 大和市：できれば入ってほしい。支援が必要な人なのに、どうやって支援をしたらいい

のかわからないというのが地域の課題である。それなので、支援が必要な人も地域に入ってきてほしい。災害時には行政(市)ではなく、地域ごとの自治会が避難所を運営することになる。

○委員：配偶者が日本人であれば、自治会に入るなどして日本人とのコミュニケーションは取りやすいはず。外国人夫婦や単身世帯、外国人同士だけで暮らしていると自治会に入りにくいのでは。

○大和市：先ほど、外国人の高齢者のための提案があったが、日本人についても家に引きこもりがちな高齢者は問題になっている。外国人については、どうやって情報を提供したらいいのかというのが行政の課題になっている。日本人なら全戸配布や回覧板などが考えられる。外国人にとって気軽に集まれる場所があれば、そこから多くの外国人に情報が届けられるかもしれない。

○事務局：東日本大震災という大きな災害があったので、「防災」に関しての提言はかなり実行されているように感じられるかもしれない。逆に言うと、何かが起きなければ、外国人に対する(多文化共生の)施策が進まない状況であるとも言える。

○委員：先ほど意見のあった生活ガイドに自治会のことは書いてあるか。

○事務局：自治会のことを簡単に紹介しているが、自分がどの自治会に入るかなどの詳しいことは明記していない。

○委員：若い方や英語などを話す方が自治会にいれば、外国人も自治会に入りやすいのかもしれない。保育園で子どもたちと自治会の方との交流の機会を設けているが、そこに外国人の方も入ってきていただけると子どもたちにとってもいいことだと思う。保育園に自治会長を招待したが、来ていただけなかった。子どもを交えた地域のつながりが大切と思う。

3 第3期提案について

第3期は東日本大震災が起きたことから「災害時対策を軸とした外国人、日本人を含めた多文化がつながるネットワークづくり」というテーマを設けて実施した。大規模な災害が起きたときでも外国人市民、日本人市民がお互いに助け合うことができるようなネットワークをつくっていくためにフィールドワークでの聞き取りや災害多言語支援センター設置・運営訓練を行った。

- | |
|------------------------------------|
| 1 外国人市民の災害に関する知識・備えの不足に対する対応 |
| 2 「支援される側」としてだけでなく「支援する側」としての外国人市民 |
| 3 外国人市民への情報提供 |

4 災害多言語支援センター設置・運営訓練の必要性

5 さらなるネットワークづくりに向けて

- 委員：外国人対象の訓練はどこでどんな訓練をやっているのか。防災訓練という、いつも同じ人しか来ていない。
- 事務局：大和中で実施し、支援者側と被災者側(外国人)に分かれて避難所の巡回訓練を行った。外国人に被災したというロールプレイをしてもらい、被災状況や困っていることを支援者役のボランティアが聞き取るという内容。自治会を含め、90名の参加があった。
- 委員：支援者側のボランティアは大和中学校の学区の人なのか。
- 事務局：災害多言語支援センターは分庁舎に置く想定になっており、市内外の方が支援者として支援センターにかけつけるものと考えている。当日は通訳ボランティアが各避難所に巡回して聞き取りをするという訓練を行った。

(今後の会議について)

- 委員長：第1期から第3期までの提言を振り返った。会議のテーマは外国人が発信するやまとの魅力～多様性を生かした地域づくり。外国人の社会参画を進めるため、日本人への働きかけをどのように行っていくか。そうした取り組みはどのようなものが考えられるのか、次回以降われわれが考えていきたい。これまでの提言で取り上げた課題について掘り下げてみれば、学校や病院での問題が、全体に共通した問題としてつながってくるものかなと思う。
- 大和市：今日の会議では提案もあったので今後につなげられるようにしていきたい。
- 事務局：次の10月、11月以降の会議にはゲストを招き、地域の課題解決を考える際、実際に課題の解決に取り組んでいる方の話を聞いて、われわれの参考にしていきたい。
- 事務局：前回会議では教育の提言に関する意見が多く、課題はそのまま残っている中で、今後は課題の解決に向けた取り組みの話に移っていくわけだが、皆さんはどう感じているか。
- 委員：提言(による課題の解決)ばかりを言い続けても「やっていないところがあるから、ここまでやってください」「これが限界です」といったようなもので、水のかけ合いみたいになってしまう。過去にこれだけの提言がなされて、大和市でも何かしらの取り組みはしているような状況がある。個人的な意見になるが、新しい提言も必要なのかもしれないが、これまでの提言にプラスした何かを追求していった方が第4期の形としてはいいのではないだろうか。突き詰めていくと、しくみなのか、人なのか、連絡体制なのか

わ
分らないが、学校でも病院でもすべての問題に当てはまる問題があるのではない
か。

○委員：課題は出尽くしていると思う。これ以上提言しても仕方がないようなところもある。
内容を深めていく方がいいのではないか。

○大和市：特に力をいれなければいけない部分は何だろうか。そこに注力していく必要
があるのではないか。

○委員：やっているか、やっていないか、ではないと思う。実際に起きている問題に対し
て、対応できているのかどうか。実態に合っているのかどうかの調査が必要なのでは
ないだろうか。外国人の声を聞かないと分からないこともあるのかと思う。

○委員：いつも同じ課題ばかりで変わらないところもある。

○大和市：課題を抱える外国人の相談に応じている委員もいるので、今後の会議で意
見を出していただき、参考にしていければ。

○委員：すべてに対応できないので、課題のしぼりこみということになるかもしれない。

○事務局：次回は課題のしぼりこみという話ではなく、課題を解決する際の参考になる
話。

○事務局：わたしたち市民がどのような力を持っていて、その力をどう生かしたら地域の
課題の解決につながるのかを考えたい。行政への提言を出すことで解決につながる
こともあれば、つながらないこともある。提言ではないアプローチで課題の解決を考
てみようということ。

○委員：例えば、他市で外国人が参加するような会議を参考にすることは可能か。

○委員：11月の会議で他市の会議に参画しているゲストに来ていただき、われわれの参
考にしていきたい。

○委員：問題は外国人にあるのではなく、日本人にあると考えることもできる。この会議
には外国人だけでなく、世代を超えた方々が集まっているので、自分の考えを表す
ことが大事なことだと思う。

4 スケジュールの確認

次回の会議は 10月8日(土)14:00～、同じ市役所分庁舎2階会議室で行う。

以上